

たわわ

2017 No. 102

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



〔春山〕



〔夏山〕

描き出す
自然の手触り

日本画家 齊藤典彦

日本画家 齊藤典彦さん

祖父は書家で、母は絵が大好き。そんな環境だったので、芸術に関するものは幼いころから身近にありました。

特に母が持っていた画集、中でも日本画の表現に強く惹かれていきました。展覧会に行くようになると、日本画特有の画材である岩絵具がすごくキラキラして魅力的でした。



岩絵具

日本画を支えている岩絵具、紙、絹や膠(にかわ)は、個人経営のお店で作っていることも多く、社会の変化や環境問題のために経営を続けるのが難しくなっています。

僕らが使う量は微々たるものですが、それを使い続けることにより紙を漉く人々の生活が成り立ち、木を育てる環境が保てたりします。そういう風に社会とのつながりを大事にしていきたいとも思います。僕が勤めている東京藝術大学には、伝統的なものとか文化の保存というものについて、うちがやらなきゃどこがやるんだという気風や社会的位置づけがあります。

個々の制作と社会とのつながりを意識するようになったのは、特に藝大で教えるようになってからですね。

一時期、東京に下宿したこともありますが、生まれてからずっと平塚に住んでいます。

東京はすごくカオスな場所で、時間とか情報も流れるのがすごく早いです。それに巻き込まれないで一步距離を置きたいと思う人には、平塚は程よいところだと感じています。

芸術などの表現そのものが都会や都市生活と切り離せない面もあるわけですが、平塚に住み、カオスと距離をおくことで、芸術そのものを客観的・冷静に見られる部分もあります。

普通に暮らして何か表現したいと思っていることは皆さんありますよね。地域で普通に暮らしている人たちも、形は様々ですが何かを発信して生きている。都会や都市生活から生まれるものが全てじゃない。

このところ高麗山を題材に描くことも多くなりました。

高麗山の高句麗の人が移り住んだ頃からの大きな時間の流れと、自分の個人的な時間。そんな様々な時間の重なりみたいなものが自分の絵の一つのテーマであったりします。

高麗山はこれだけ街に近い割には人の手が入った里山とは違い、自然がそのまま残っている部分があって、ダイレクトに自然と接することができる場所ということでも、非常に自分の中では大切な場所になっています。



こまやまーなつ

街から少し離れば豊かな自然があるというのも、平塚の魅力だと思います。

文化庁の派遣で、約一年、イギリスに住んだこともあります。そこで気付いたのは、自分がいかに日本語で考えて日本語の背景を元に絵を描いているのかということでした。

例えば、「みなも」という水をテーマにした作品があるんですけども、タイトルを漢字、英語で書いた場合には、「みなも」というひらがなが持つ文化的歴史的背景とは完全にずれてしまいます。

ずれてしまっている部分が本当はとても大事で、英語での「みなも」という言葉が持つ意味で理解されてしまうと、伝えたいことが正確には伝わっていないのだと思います。

そういったわけで、僕にとって言葉はとても大事にしているツールで、英語のタイトルの時は英語でものを考えたり英語のイメージで描いているんです。

日本画は水や山、大地など、日本の湿潤な気候とか自然環境をテーマにしていることが多いのですが、素材も水溶性の絵具だったり、この国の水のある環境がとても大事な要素です。



2016タイ・シラパコーン芸術大学にて

以前、カザフスタンで展覧会やワークショップをやったことがあるのですが、砂漠の乾燥した大地が多い国では、四季がどうか湿潤がどうか言っても通じません。

そういう時は相手の国の自然観や価値観と共有できる部分を探して説明したりします。

日本画はこういうものです、ということを手言葉で伝えるんじゃないくて、本質的なものを相手に伝えて感じてもらうようにしています。

個人的には、自然と人間が同じレベル、あるいは自然のほうが大きく、自然があって自分がいるという感覚で作られているものも、日本画（もっと別の良い名前があればとは思いますが）と呼べるのではと思っています。

日本画の特殊性を語り何かと比べるというのではなく、自然を大切に感じる感覚から生まれ全世界で共通する表現というものを、これから考えていってもいいと思っています。

【プロフィール】

齊藤典彦

平塚市生まれ

東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻日本画領域満期退学

第10回山種美術館賞展で優秀賞受賞、「Nachi」が1994年に文化庁買い上げとなる。

1995年、文化庁派遣在外研修員として翌年までイギリスに滞在

2007年、平塚市美術館にて齊藤典彦展「きもちよくなされる」を開催。

現在、東京藝術大学日本画研究室教授



ひらつかの文化財を知ろう⑬

富士山宝永噴火と文化財

「金目ふるさと検定」の上級編、問26の問題です。

「宝永4年(1707年)の富士山の火山灰による、金目地区における降灰の量(厚さ)はどれくらいだったでしょう」。

江戸時代中頃の宝永4年11月に富士山が噴火し、西風に乗った火山灰が相模から江戸、房総にかけて約1か月降り続きました。この噴火で富士山6合目付近に火口ができ、平塚から稜線左(南側)のわずかな高まりにより噴火の跡を確認することができます。江戸時代の後半になると浮世絵に富士山が盛んに描かれますが、滑らかな稜線のイメージが強いためか宝永火口を描くものは多くありません。同じころ描かれた市指定重要文化財「中原御宮



平塚市指定重要文化財「中原御宮」部分拡大

部分拡大

記」の挿絵でも、火口と思われる付近は雪がなく暗い色で彩色されているだけで宝永火口を意識したのか疑問です。

さて冒頭の答えは20~30センチです。北金目村の古記録に7~8寸ほどの砂が降り、村人が砂を取り除くために働いたと記されています。

噴火による火山灰の降下やその積もった状況は「砂降り」とよばれ、真田・北金目遺跡群では火山灰に埋まった道路や水田が発掘され、災害の大きさを知ることができます。一方、農民たちの復興に向けた努力も発掘されています。火山灰を畑にすき込んだり、埋めて元の畑の土と入れ替える「天地返し」が行われていました。一面に降り積もったわけですから大変な労力だったことでしょう。この天地返しは山北町から平塚市周辺で見られる災害復興の姿です。

秋から冬は富士山を眺めるベストシーズンです。平塚から望む富士山の景観は今も昔も変わりません。変わらぬものがあるからこそ歴史や文化財をとおして昔の思いや営みを知ることができ、共感できるのかもしれない。



真田・北金目遺跡群 寺尾遺跡(真田一丁目)堀が埋まる途中でV字状に堆積した宝永火山灰

リトアニアだより(2)

リトアニアは日本から遠く離れた小さな国ですが、多様な分野、特に経済と科学において健全かつ安定したパートナー関係を築いています。日本はアジア・太平洋地域におけるリトアニアの貿易、観光、科学研究連携の最大の相手国です。

二国間の貿易では、近年リトアニアから日本への輸出額が顕著に増加しています(2016年財務省貿易統計:582.6億円)。タバコ、乳製品、精肉などの農業製品や光学機器類、家具、薬品、繊維製品が主要品目です。また、今後リトアニアで発展が期待されるのは、ICT、フィンテックなどの情報通信技術に関わる分野です。



リトアニア食品の展示会(駐日リトアニア大使館)



リトアニア織物製品の展示会(東京)

リトアニアはその歴史と豊かな自然、伝統文化やユネスコ世界遺産の魅力から、日本でも人気の観光地として知られ始めています。特にカウナスにある杉原千畝記念館は、日本人に最も人気のスポットの一つです。2005年に

8,940人だった日本人観光客は、2016年には2万2,700人と2.5倍に増え、現在リトアニアの観光客全体の1.5%、アジアからでは26%にも上ります。

ライフサイエンスや保健、医療、薬学、生物工学、光工学などの研究開発における日本とリトアニア間の連携は、この5年間でめざましく発展しました。科学技術振興機構、日本学術振興会、日本医療研究開発機構など日本の研究資金提供機関と連携協定を結び、55の日本の大学と学生や教員の交換を行っています。今後はさらに、腫瘍学、診断の困難な遺伝疾患等の研究でも連携を模索していく予定です。

リトアニアと日本の経済交流が、ますます活発になることを願います。



リトアニア観光セミナーの様子(駐日リトアニア大使館)



2016年ライフサイエンスバルティックスへの日本からの訪問団(ヴェリニユス)

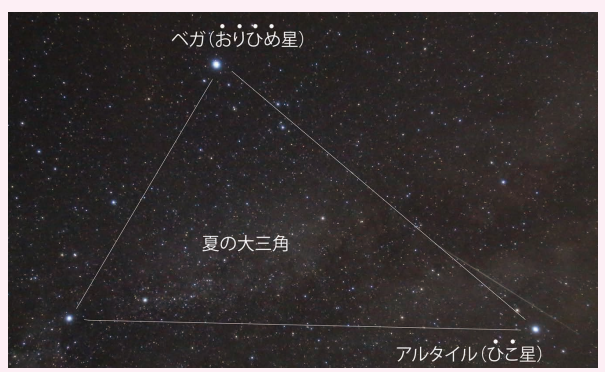
文・アスタ・ザヴェツキエネ駐日リトアニア大使館書記官

足もとの星座たち 第2回

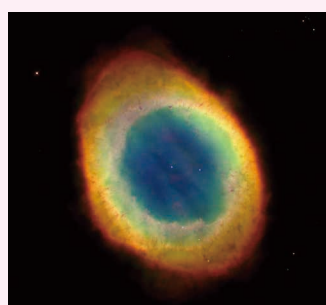
七夕の街・ひらつかにふさわしく、七夕の星、おりひめ星（織女星）とひこ星（牽牛星）が属す2星座、こと座とわし座を紹介しましょう。

こと座は夏の代表的な星座の一つで、織女星であるベガは「夏の大三角」をつくる星です。ベガの近くに見られる平行四辺形の星ならびがことを表しますが、星が暗いため市街地では探しづらいでしょう。

このことは日本の琴ではなく、西洋の豎琴・リラのこと。ギリシャ神話では、芸術の神ポロンの息子で吟遊詩人のオルフェウスの持ち物だったと言われてています。



「夏の三角形とおりひめ星・ひこ星（秋山昌俊氏撮影）」



「ハッブル宇宙望遠鏡が撮影したこと座のリング星雲(The Hubble Heritage Team(AURA/STScI/NASA))」

こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲があります。太陽のような星が最期を迎えた姿で、ガスが球殻状に広がったものです。指輪のような形に見えるため、牽牛星が織女星に贈った結婚指輪なのかもしれません。

わし座も夏の代表的な星座のひとつです。牽牛星アルタイルも夏の三角形をつくる星の一つですが、ベガよりもやや暗い星です。全体を線でたどるのは難しいですが、等間隔で並ぶアルタイルを含む3つの星のならびが目印です。このわしは、ギリシャ神話では大神ゼウスがトロイアの王子で絶世の美少年ガニュメデスをさらうために化けた姿だと言われてています。星座絵によっては、男の子を掴んだ姿で描かれることもあります。

こと座とわし座の星座絵タイルは、まちかど広場前の交差点にペアで、また、その交差点の南に延びる公園通りなどにそれぞれ単独で設置されています。平塚に馴染みがある星座としてかなりの数が設置されていますので、巡ってみてください。また、こと座もわし座も夏の星座と言いつつ、秋が深まるころまで西の空に見ることができます。秋晴れの夜に、夏の三角形を頼りにぜひ探してみてください。

(平塚市博物館学芸員)



「こと座の星座絵タイル」



「わし座の星座絵タイル」

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために様々な事業で活用されています。たとえば、小学校の音楽室でプロの演奏家による生演奏を子供たちに届ける「学校アウトリーチ事業」やパールロードにすりと並ぶ囲碁盤と多くの囲碁棋士の来場が豪華な「湘南ひらつか囲碁まつり」などです。

基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。

(電話 0463-32-2235)



平塚市文化祭のご案内

10月5日～11月19日まで、第65回平塚市文化祭を開催しています。詳しくは平塚市のホームページ (<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp>) をご確認ください。社会教育課 (0463-35-8123) に御連絡ください。



音楽



三曲



茶道

(昨年度の様子)

発行 平塚市文化・交流課 〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成29年(2017年)10月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp>

再生紙を使用しています